愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(五日廿日)發行●電話番町千七百十五番●同五百廿番●遞送紙料●振替貯金口座壹壹六一番

Aug. 5th. 1909.

明治四十二年八月五日發行

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一

主張

婦人の務(二)

米國ワシントンに起れる「革命の娘」なる婦人會の一目的は、現代の奢侈放逸の潮流に反抗して、着實質素の風を興すにあり。而して我等は、前號に於て、その同じ活動の、我が國婦人界にも、始まらんことを望みたり。然るに「革命の娘」の期する所は、獨りこれに止らず、社會の濁流惡風を抑滅するの原動力たらんとするにあり。これまた、その通りを、我が國婦人界に望まざるを得ず。讀者は、我が國今日の道德風儀を、何と見らるゝか知らざれども、我等は、實に嘆息の外なしと思ふなり。毎日の新聞を見れば、詐僞、瞞着、泥棒、殺人等、あらゆる罪惡、博覽會の如く、並べあり。第一人民の代表者として、公益を謀るべき代議士からが、公益を犧牲として、私利を謀り罪を犯す世の中にて、世界へ對する國民の不面目此上なき次第ならずや。婦人は昔より道德の維持者、風俗の洗練者として、謳歌せられ居るなるに、今の婦人は、この滔々たる社會の腐敗を、平氣に見過し居るにやと、不審を起さゞるを得ず。婦人が、たゞ男子の一盼を得んために、容姿の化粧に餘念なき間は、婦人により、その國の道德風俗が高まるものにあらず。西洋の中世にては、夫の出陣の門出には、妻が自ら胄の緒を締むるが例にて、その締め方寛ければ、戰場にて、花々しき功名は、決して出來るものにあらず。今の世には、夫の胄の緒を締むるが如きことはなきも、その心の胄の緒を、締むるは、矢張り妻の役目なり、夫が善からぬ心を起し、又は惡事を行ふは、一つは妻の手落といはざるべからず。夫の名譽不名譽の半分は、妻の責任として、これを受け取るが當然なり。家庭に於ける婦人の責任豈に容易ならんや。社會に立ち働く多くの男子は、家庭に在りては、即ち夫にして、その後援かたゝき倒しかの爲めに、妻は控へ居ることを、一日も忘れざるやうすべし。

我等の日頃殘念に思へるは、社會上婦人の制裁力の、如何にも弱きことなり。米國にては、或大統領の夫人が、接客の際、一新聞記者に對して、握手を許さずして、顏をそむけたるため、その記者は國内に居たまらずして、出奔せりといふ事を、聞きたる事あり。婦人の一擧手一投足は、社交上斯る勢力を、西洋にては有するものなり。又著名の政治家などが一婦人と醜關係を結びしため、遂にその位置より落されて、社會上の自滅を餘儀なくされたるの例は少なからず。日本にては、斯る事が、政治家や實業家の資格に障らざるは勿論、寧ろ全盛の證據として、公然之を行ふて憚らず、新聞も、毎日艶種としてその披露を怠らず、讀者もこれを羨みて、一日も早く斯る境遇に到らんことを願ひつゝあり。獨り迷惑千萬なるは婦人なれども、案外本人は平氣にてこれに對して、公憤を發する婦人もなく、又婦人が團體を作り、輿論を興して、これに當らんとするものもなく、日本にては、男子の不品行勝手次第の觀なきにあらず。斯くの如くにて、婦人の意氣地は、何處にこれを見ることを得べきか。

以上はたゞ、男子に對する婦人の態度に就きての一例なるが、社會の道德風儀の矯正につきて、一般に婦人の無力なることを、我等は、實に殘念に思ふものなり。今日の我國は、道德風儀の、新舊混亂の時代にして、未だ行き着く所に行かず、勝手放題、出たら目の横行する最中なれば、斯る時こそは、最も婦人の働きを要するなれ。我等は社會の道德風儀の爲め、婦人が、自己の任務に就ての覺悟を促すものなり。

甲斐御嶽の仙娥瀧

▲短篇小説を募る

本誌に愛讀諸姉の作られた短篇小説を載せ、一層の光彩を本誌に添へることに致し既に前號に掲げました。諸姉萬望御投稿を願ひます

但し一行十八字詰にお認めの上八十行以内に纏めて戴きたいのです

但し限期は定めませぬ。

懸賞

懸賞の新案を募る

爍けるやうな暑さ、休息の時期が參りました。山に海に暑を避けらるゝ方々もありませう。若しくは、室内で靜かに安息を取らるゝ方もありませう。かゝる安息の時期を有益に使はるゝ御一法として、次のやうな懸賞案を募ります。その案と申すのは

斬新で有益な懸賞方法

で御座います。何う云ふ方でも容易く懸賞に應ずることが出來るのが第一。それで居て成るべく斬新で、有益なのが第二と云ふ條件で、何のやうな案が此の條件に適ふ新案になるか、それは愛讀諸姉にお考へを願ひ度ひのであります。その御考へをば懸賞で愛讀諸氏から募集致すのであります。

何うして募集に應ずるか

で、此懸賞に應ぜらるゝには端書に、第一懸賞の題名、第二懸賞の方法を成るべく單簡に記して投書して頂きたいのです。で、締切後第一等に當選した分の新案から順次に採用して、更に其新案に依つて懸賞題を此誌上で募ります。

應募者の御注意

一、用紙 は必ず端書のこと

二、賞品 は一等(一人)『愛國婦人』雜誌半年分講讀券 二等(二人)『愛國婦人』雜誌三ヶ月分講讀券 三等(三人)『愛國婦人』雜誌一ヶ月分購讀券 と致します。

三、締切は 八月の三十日。

懸賞

懸賞の新案を募る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東西名苑の比較

東京美術學校長　正木直彦

關東の名苑として數へらるゝものは、濱御殿、紅葉山、青山御所、後樂園、松浦伯爵家の苑なるべし。上野公園、愛宕公園の如きは、名苑にはあらずして樹林地である。

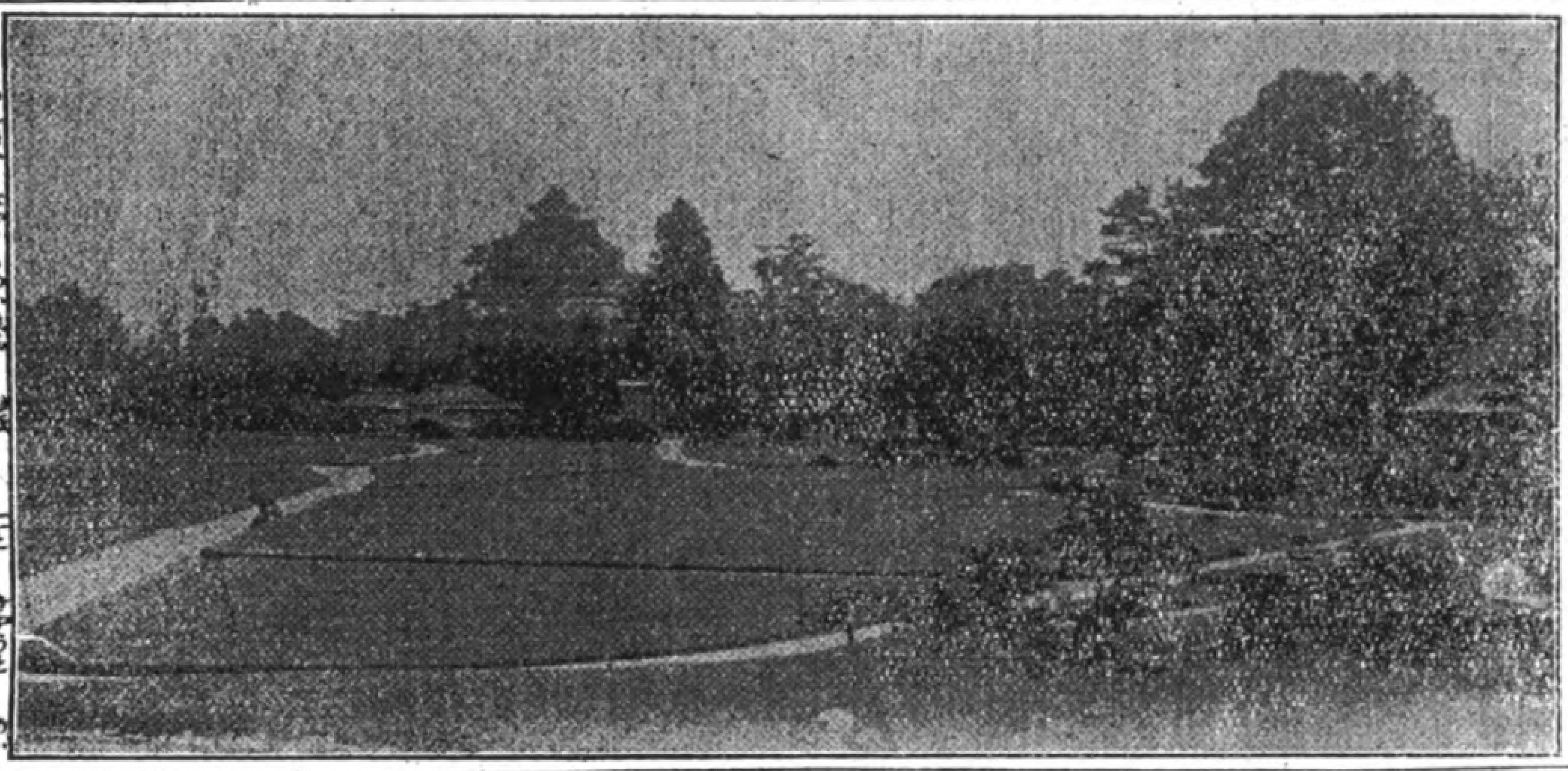
總じて東京の名苑は樹林の成長力が關西名苑に比して一層盛んであるやうに思はれる。故に急速なる樹木の成長によりて、名苑の美觀は年を經ると共に殺減せらるゝは遺憾と云ふべき次第にて、櫻の如きものは、苑中より除くべき性質のものである。

然しながら、成長力の遲き純粹の山櫻――上野公園三宜亭の前にある樣な種類なれば、別段害にもなるまじきも、關東各地到る處として植えられざるはなき薪の材料となる櫻は成るべく名苑中には避けられたきものである。（鳥渡、お斷り致して置くが、小金井の櫻は純山櫻ではない）

濱御殿も櫻ある爲めに苔さびた名苑の風趣を次第に殺がれて居るのは、その著るしき例である。

名苑は二十年や五十年で立派なものになるものでは無い。數百年以上の歲月の經過に依つて、その重々しき掬すべき雅致を自然に備へ來るものである。濱御殿は商工業發展の爲めに倉庫地となすべしと云ふ人がある。が、これは妄も亦た甚しい事である。商人根性から見れば無用の長物と云ふかも知れぬ。けれども、名苑の眞髓を解し得たものから見れば、商工業者ほど利己的な無風流なものはないと云ふべきである。何となれば、名苑は一朝一夕で出來得べきものではないのである。佐竹の庭園の如き（向島の枕橋）のですら、中々の苦心で出來たものである此園は園としては規模も小く、面白味も少ないのである。

金澤の兼六公園の如きも名苑ではないが、これすら容易に構へることは出來ないのである。赤煉瓦の多き日比谷に歩行して、あの公園を造つた手並を見ると、それだけで明なことゝと思ふ。



岡山後樂園の全景

關西は仲々名苑が多い。殊に京都は名苑に富んである。修學院御所、桂の宮、枳殻邸、金閣寺、銀閣寺の如きは、關東の名苑よりも樹木の發達が遲々たるだけそれだけ、その雅趣を豐にして居る。岡山の後樂園、香川の栗林公園も中々のものである。

關西は砂礫地の名苑であるから、樹木の成長力が遲く、關東は粘土地ゆゑ、成長力が早いのである。天下第一の名苑は何處であらふかと云へば、各名苑の特長を比較して考究するも仲々その比較の高低を付くることが出來ないのである。

何れの名苑も皆善いと云ふて好い。座して觀る名苑と、歩いて見る名苑と、平地で構へられたる名苑と、山谷の自然を利用したものと、種々に區分して見ると皆その特色を有して居る。唯一般の上から見れば、關東の名苑よりも關西の名苑が一歩秀絕して居ると云ふて善い。

西洋草花の輸入によりて、日本の名苑は其移植を如何にするやと云へば、日本の名苑には不適當として拒絕すべきものである。何でも植へねばならぬと云ふやうな考へでは名苑の趣味を沒却して仕舞ふのである。名苑には躑躅や、紅葉や、菖蒲で色を付けても、別に害にはならない、が、四時變化のないものに重きを置くへきものである。

東京にも、是非市民の一大名苑を有せしめねばならぬ。此名苑候補地たる向島に、鐘紡や、東坊や、瓦斯タンクやの粗雜な工場を何故に許したのであらうか。警察令と云ふものは、全然盲目である。向島を今更一大名苑にすると云ふことは困難なことである。市中の眞中に、セメント工場を許して置くやうな無法には、實に驚き入る他はない。府市の當局者が一致して都市美觀に注意を拂ひ、工場の豫定地と、公園の豫定地と交錯せむるやう一大定見を以て確定して置かねばならぬ。市區改正とは、道路や下水のみのことを云ふのではないのである。

愛國婦人

△理想の家庭▽

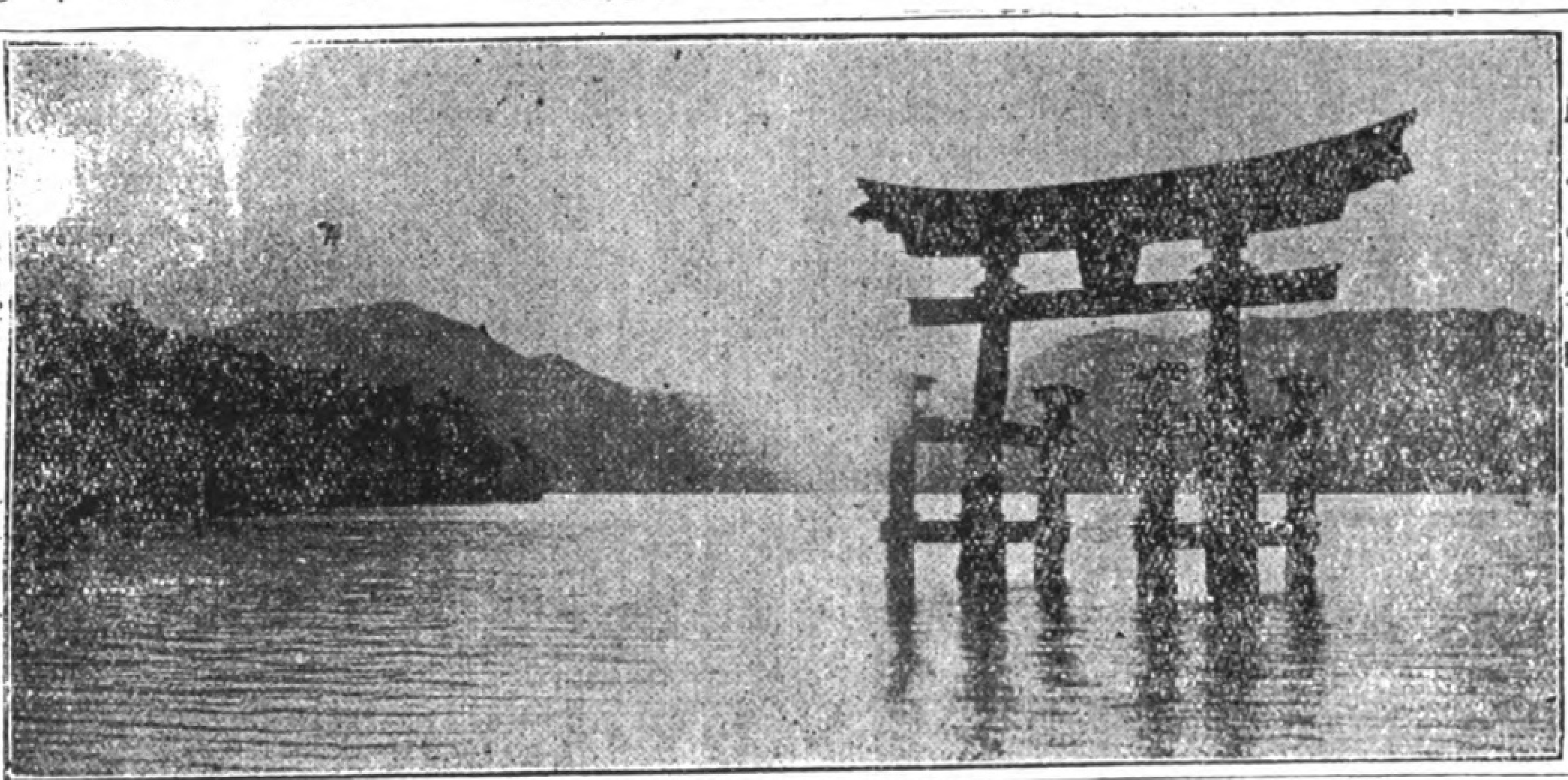
愛讀諸姉各位が各自の地方で之れが理想の家庭模範になると認めらるゝ家庭の狀況を簡單に御報知願ひます締切は八月五日用紙は端書

教育は目より入る者よりも耳より入る者多し

文學博士　それがし

▲三ッ子の魂百までも

家庭の談話といふものは些細なる樣なれども、國にも家にも大關係ある者なり。祖母が愛孫の爲めに爐邊に物語りする猿蟹合戰、桃太郎遠征物語は、直に國民の性質を造る者なり。三歲兒の魂は百までもせず雀百まで躍忘れずとは、眞に不磨の格言にて、幼き時に吹き込まれたる精神こそ、たしかに其人の品性を形造る者なれ。



嚴島の夕照

▲善く語る父母を有する子

生業に間隙なくして朝より暮まで親子團欒の樂みなきものは、談話の快味を知らず、談話の利益をも受けざる者なれば、かゝる家庭に生長したる小兒の智識は自ら狹隘なる者たり。これに引かへ、家に餘の時ありて、家内靜かに相語るの機會多きものは、小兒等も自ら色々の事に通する者なり。されば談話なき家庭は、敎育なき家庭なりといふも可也。善く語る父母を有する子孫は、眞に幸福なりと謂つべし。

▲注意して談話を蓄へよ

此理を合點したれば、父母たらん人は常に注意して談話の種子を蓄へ置くべし。物に觸れ事に當りて小兒の心を啓發すべき談話を工夫し置きて、折を見て之を爲すべし。これ造作もなきことのやうなれども、中々六ヶ敷ものなり。若し敎科書など讀み得る人なれば、これをたよりにして工夫すべし。新聞雜誌なども談話の種子になること多ければ、心して讀み置くべし。これも唯己れの心を滿足する爲に讀まず、小兒に面白からんものを求むべし。人誰か愛子の爲めに衣服を買ひて與ふることを吝むものあらんや。いわんや愛子の心を養はんが爲めに、談話を蓄ふるに時を惜むの箸なし。

▲禪坊主の如きは小兒に禁物なり

談話は相互の者なり。聞くものにも自ら話すやうにさせるは、談話の秘訣なり。小兒の爲に談話を蓄へたらば、小兒よりも談話を聞くやうに奬すべし。世間の父母の中には、小兒の話をたはいき者、うるさき者に思ふて顧みざる者多し。甚だしきに至りては小兒に物を尋ねられて憤怒したゞ〱其沈默ならんことを欲する者あり。さりながらよく〱思案すべし。大人には、たはいなき事なり共、小兒には大切なることなり。大人には囈語の如く聞ゆるとも小兒には全心を込めたる發明なり。譬へば立て、立てば歩行めといふは人の親の心ならずや。此の心を推して小兒の心を推すれば、少許の發明なりとて、小兒だけの發明は褒めて之を奬ますが親たる者の情に非ずや。されば獨り小兒に談話を聞かするのみならず、小兒の談話を聞く事は小兒を敎養するの道なり。默坐證心などいふ禪坊主の如きは、小兒に敎へずともよろしきとなり。

▲敎育は耳より入る者多し

日本は言魂のさきはふ國とて、言語の發達したる國なりと曰はれたれど、中世より儒佛の敎入來りて儒敎は言に訥にして行に敏なりと敎へ、佛は狂言綺語を誡めたれば、口利く事は輕薄者流のすることに思はれて、談話の上手なるは人品を下ぐるやうに言はれたり。されど、これは大なる誤解なり。人若し其心に思ふ所あれば、言語に現はれざるを得ず。既に言語の上に顯はるれば、成るべく人に分り易き樣にしたき者なり。孔子も辭は達すと曰へり。辭若し意を達すれば既に其上乘なり。父母若し幼子に徹透する程語り得ば、父母としての談話は既に十分なり。敎育は目より入る者よりも、耳より入る者多し。家庭敎育に心ある者、此理を顧みて可なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千山萬水

甲斐の別天地「御嶽」

▲第一に猿橋見物

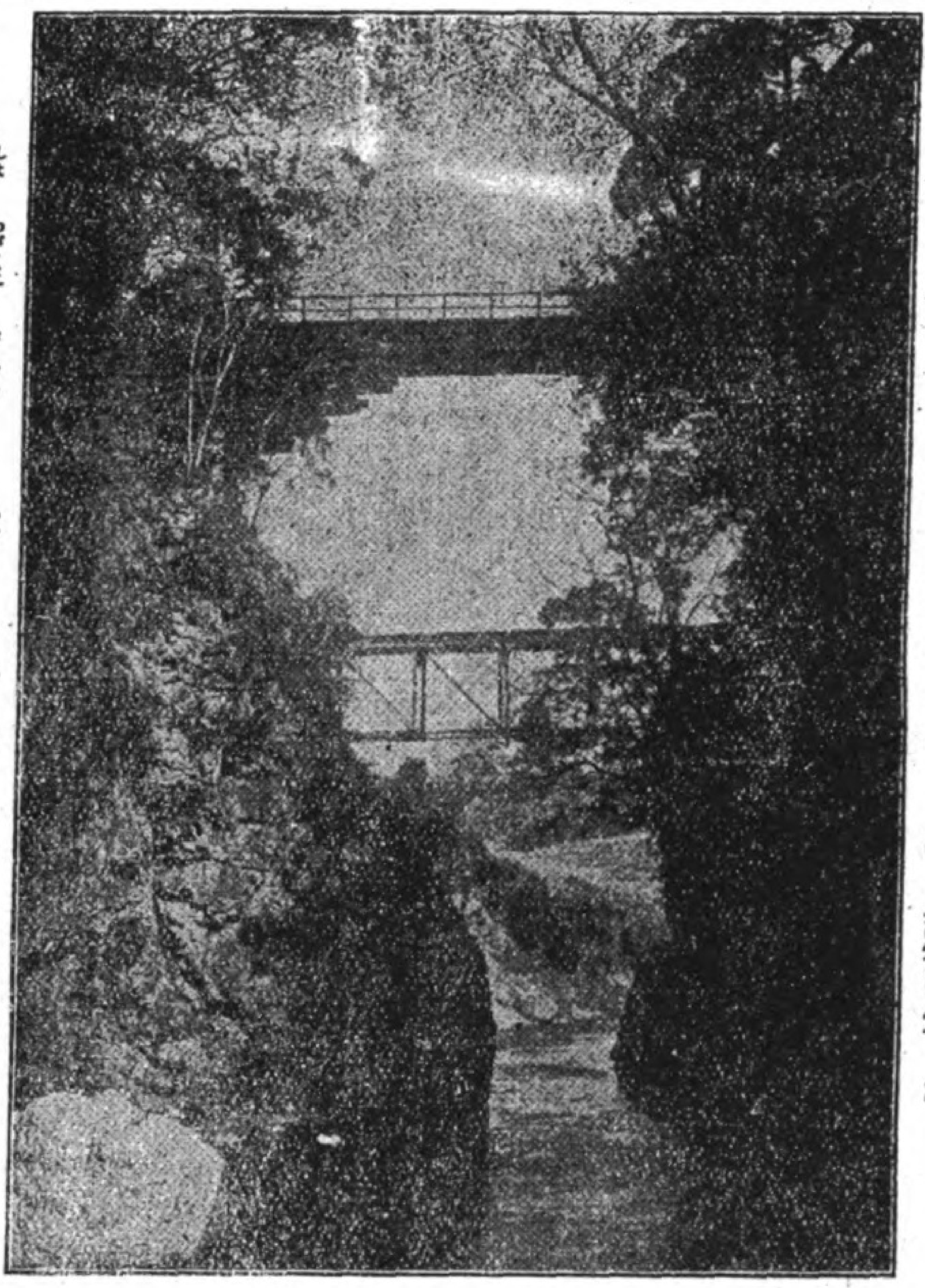
やれ二十年振の暑さだの、三十年振だのと云ふ人の口々、やれ、日射病にやられたの、何のと云ふ取沙汰、斯う云ふ時には山間を跋渉して、涼を呼ぶに限ると思ひ立つ日を吉日と東都を出る。

飯田町の停車場から約二十五里の猿橋驛に着く。有名な猿橋――周防の錦帶橋などと一緒に日本三奇橋の一に數へらる此猿橋を見、東京電燈の發電所を一見せうが爲めである。

暑い時に面倒いお話は御迷惑のことであらうと、水力電氣の方は一枚の挿畵だけで御免を蒙むることにするが、この發電所は桂川の水力を利用するので、猿橋も亦た此桂川に架けられてある。

この桂川は一に葛川に作り、富士山麓の山中湖から發し、甲斐へ來て猿橋、藤崎、鳥澤、四方津の諸村を過ぎ、鶴川、境川と合して相州に入り、相模川となり下流は馬入川となるのであるが、川流が頗る急劇であるから、この水力を利用して發電所が出來たのである。

閑話休題、この猿橋附近一帶の地は一片の石盤であつて、闔村の家は皆その上に列んで居る。されば家屋を建てるのに礎石を使ふことが無いさうである。この石と云ふは富士山の根石だとか云はれて居る。が、眞疑は知らぬ。

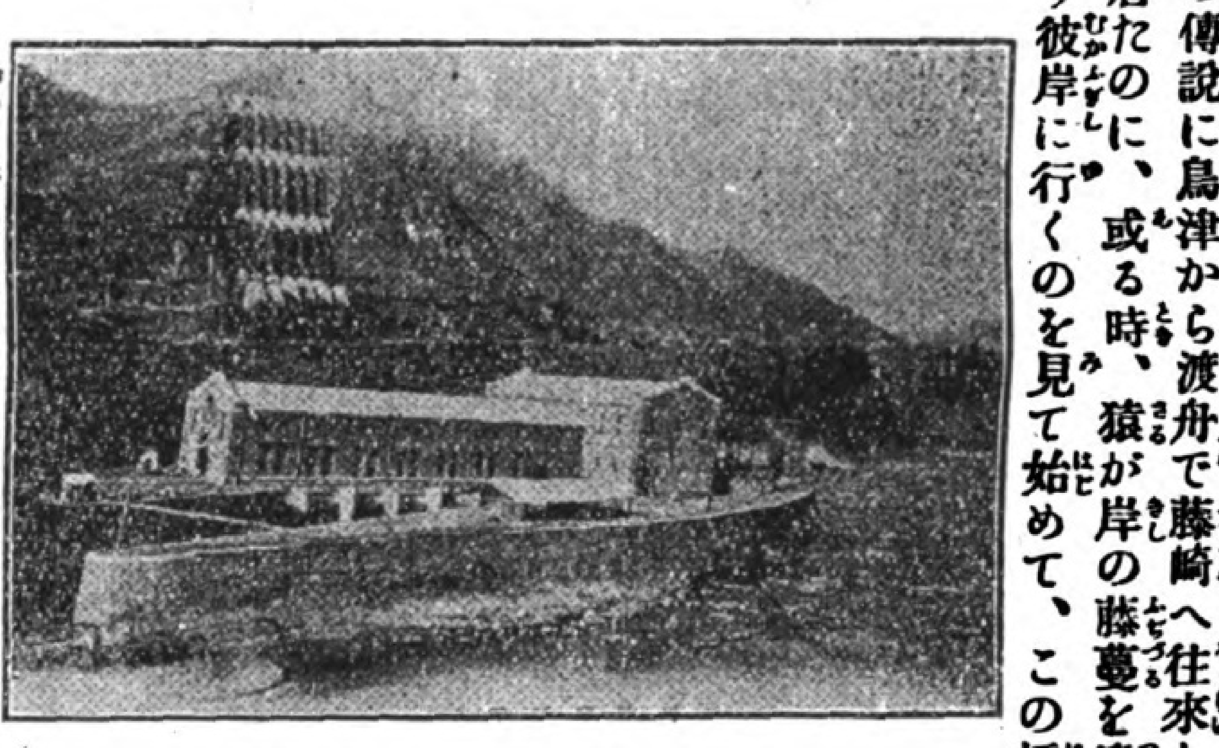


甲斐の猿橋

斯く土地の地盤が堅い位であるから、桂川兩岸に切立つて居る岩も仲々堅いばかりでなく、水面から十七間も高い處に架けなければならぬ。だから柱の立てられやうがない。二十世紀の進歩した今日には釣橋と云ふ重寶なものもあるが、こんなことの知識の無い頃、これだけのものを考へ出したと云ふのは、實に逸れたことゝ云はねばならぬ。橋の繪は此處に出してあるから、見ていたゞきたい。前方のが猿橋、後方のは、鐵道の鐵橋である。

この橋の長さ十七間、巾三間、土地の傳説に鳥津から渡舟で藤崎へ往來して居たのに、或る時、猿が岸の藤蔓を傳はり彼岸に行くのを見て始めて、この橋作りを思ひ立つたとある。歌に

名のみしてさけぶもきかぬ猿橋の
したにこたふる山川の聲



甲斐桂川の發電所

▲甲府市街のいろ／＼

東京の飯田町から、甲斐の甲府までに四十二の墜道がある。山國を通る汽車だで致し方もないが、汽車の沿道に風景の好い處の無いのは口惜しい。

扨て汽車は甲府に着いた。甲府停車橋は鳥渡好い。殊に遠景は仲々好い。その景を此處に御紹介する。

甲府停車場の遠景

町へ出るから直ぐに眼に着いて、滑稽に感ぜられるものは、鐵道馬車である。拙者のやうな大跨のものだと一またぎの半分にも足らぬほどの幅さの鐵路の上を、玩具のやうに小い鐵道馬車が、一頭の馬に曳れて徐々と行進して居る處、いかにも愛嬌がある。

それは兎に角、この甲府の町は仲々に古蹟がある。やゝ近くしては武田氏種々の古蹟、古くしては日本武尊の古蹟。その古蹟は甲府から二十五町の處にある。これは尊行在の古蹟として、老松森々たる丘陵の上に酒折の宮が鎭座されてある。此宮も此號に寫眞にして出いてある。冷泉中納言の歌に

くれぬまの嵐はたえて酒折に
枕かる夜の雨になるやと

▲いよ／＼御嶽上り

扨て之れから愈々甲斐の奇勝御嶽を御紹介する。

停車場を後方に見て、今年の四月習志野から轉つて來た歩兵第四十九聯隊の傍を通つて、武田信玄の城跡と云ふのを通つて十町も歩いたかと思ふと北相川村和田に着く。停車場から此處まで半里以上ある。此處が峠の麓で、これから松の幾千萬本と生ひ茂ける坂路を十餘町辿ると和田峠の上に出る。此處から甲府の方を瞰下すと宛然、一幅のパノラマのやうに甲府の町々、遠近の山々が見える。天麗かな日には、美しい富士の高峯が姿を充分に雲際に見せる。であるから、和田富士として稱へられて居る。こゝに閑院宮殿下御登山紀念碑が、小高き山の上に建てられてある。

扨て、これから白砂銀の如き高砂山、白旗山の山側を過ぎ、字天神平に達すると、こゝから以北は御嶽新道、即ち金溪に入るのである。金溪の勝景は、徐々、この邊から初まる。即ち道は荒川に添ひて羊腸として上りまた下る。この荒川は笛吹川と合し、下流は富士川となるのである。

金溪、即ち御嶽の絶勝であるのは、この荒川を挾さめる兩岸が頗る景勝に富むからで、いよ／＼上るにつれて、風光はいよ／＼佳くなる。と、ともに溪水は洶洶山谷に響き、怪巖危石水を弄して千態萬狀になる。この絶景のうちを二里ばかり歩いて行くと風景はいよ／＼佳くなつて來る。西崖に突兀として幾千丈高く雲に聳えて居る覺圓峰と云ふのがある。それと並んで畵のやうな『夢の松島』と云ふるがある。

▲金溪第一の絶勝

かゝる絶勝を座して充分見やうとするあらば、金溪ホテルと云ふのがある。ホテルそれ自身が既に畵中のものである。

こゝから尚ほ十町ほど上までは、金溪第一の風景がつゞく。巨巖が頭の上に突出して自らなる石門をなして居るのかある。女夫瀧とて優しき名の瀧つ瀬もある。直下十丈、巾一丈二尺の仙娥瀧と云ふのもある。

金溪の絶勝は、こゝに盡るのであるが尚ほ田圃と山道を一里ほど歩くと御嶽に着く。こゝには金櫻神社と云ふ結構壯麗を極めた社があり、大黒屋、松田屋等の宿屋もある。この邊には御嶽蕎麥と云ふのを喰べさせる。味が仲々にいゝ。が、居ながらにして、美しき自然の大美觀に醉はうとならば金溪ホテルの他、別に求むべき處はない。

甲斐は此御嶽一つを以て、充分に天下に誇るに足りると思ふ。その規模は、或ひは幾分、彼の耶馬溪よりも小いかも知れぬ。が美しさは、たしかに、それ以上である、との定評は、未だ車の通はぬ不便をも物ともせず、多くの男女を切りに此地に惹きよせて居る。――實にも、美しき自然は、この上もない、人の心の慰めである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新講談

怨みの草履

○×△

（一）さくら月夜

美しい女の化粧した眉毛のやう、匂やかな夕月は花の香を含んで、薄裡の中にあるかなきかの照り弱き宵闇である。

千代田城の奥深き高欄に、折柄の初音ゆかしき時鳥のけはひを、聞き洩らさじと佇んだ夫人は、石見濱田の城主松平周防守が室、時は享保九年四月、咲きも殘らぬ櫻月夜を楚々として逍歩の端居。

「誰か在る」

「瀧野を之れへ」

賢まつた小姓の姿は廊を彼方へ幾曲り寂びた時鳥の聲は猶斷續して聞える。

（二）上草履

瀧野は浪士岡本佐五右衛門の娘、才色並び優れて、新參ながら夫人の寵を一身に集めて居る。

俄かの御召に支度を急いで、今しも部屋を出やうとすると上草履が見えぬ。

「辰よ、草履は？」

「揃へて置きまして御座いますが」

侍女のお辰は、揃へて置いた筈の草履が見えないので其邊を切りに探したが遂に見當らない。

夫人の使者は再び來て、御召の急を告げた、が草履は未だ判らぬ。

瀧野は心急き儘に、在り合ふ草履を穿いて御前を指した。

悲絶壯絶なる此物語は、發端を茲に置くのである。

（三）妙なる調べ

夫人は瀧野の姿を見ると、崇高しい瞳に笑を湛え乍ら

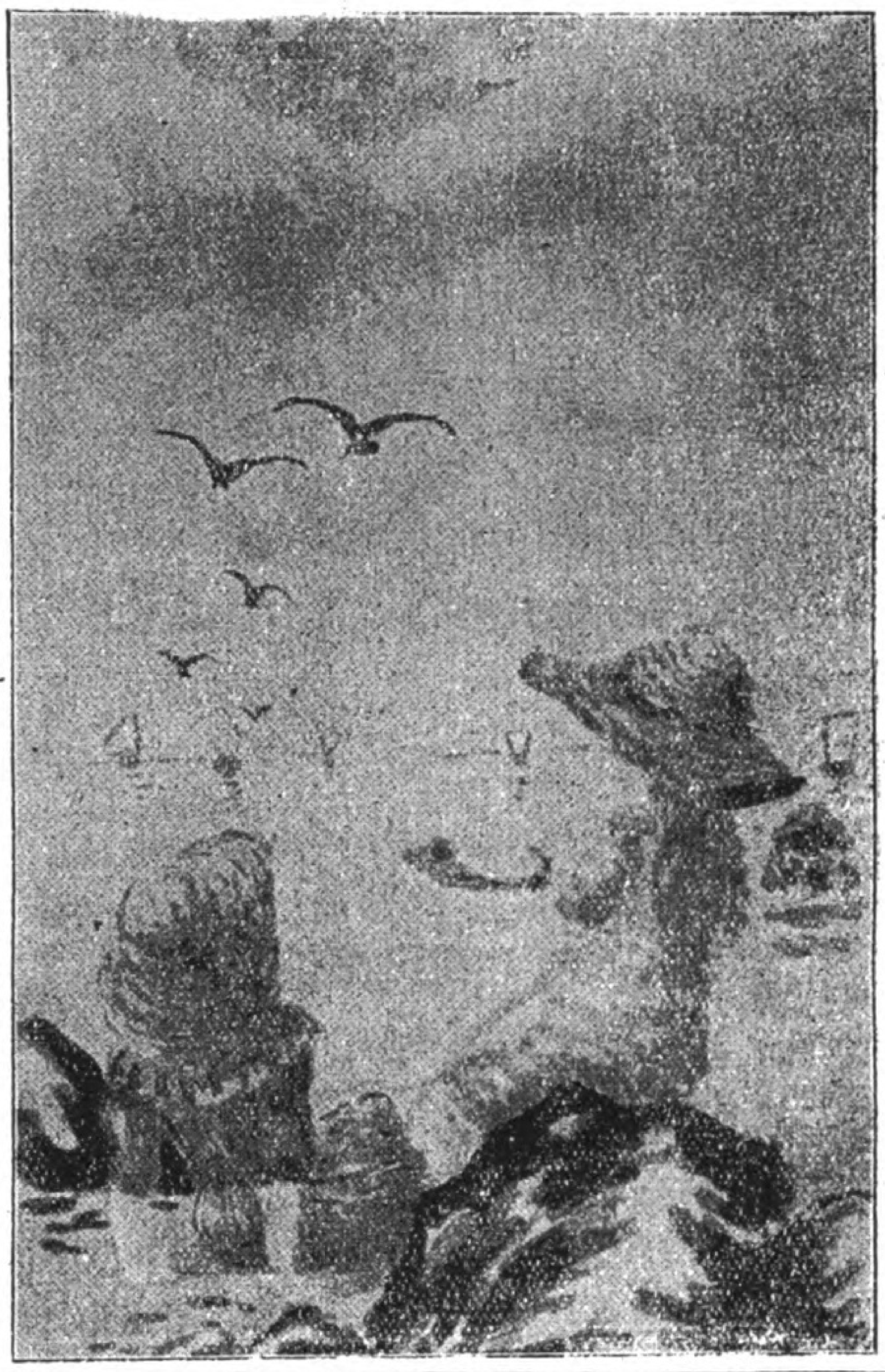
「おゝ瀧野か、急かして氣の毒な、用と云ふも他で無い。散りも初めぬ此花の眺めにも、貴女が見えでは物足らぬでの。早速なれど」

と夫人の眼は傍らの琴に流れる。

諸藝に秀でた瀧野は、殊に琴を嗜んで其の切々嘈々の調べは、夫人の此上なき慰藉となつて居た。

花のあした月の夕、纎手一度動けば珊として玉まろび、宛然遠き世の夢路を辿るが如き思ひを抱かせる。

妙なる調べに醉はんとて、今宵も夫人は瀧野を召したのである。瀧野は徐かに彈じた。一曲また一曲、興趣益々深くして夜は遂に更けた。



海水浴

青森　留目文子畫

（四）眉間の庇

瀧野は御前を罷つて一人長廊下を辿ると、突然に喚いた者がある。

「草履泥棒！」

瀧野はハッと驚いた。何と云ふ無作法者だらう。

「人形のやうな顏の泥棒が廊下を通る」

罵り掛けたは澤野と云ふ老女、老女と云ふを笠に着て、ひら女中を苦しめるので評判は頗る惡い。

新參の瀧野が眉目麗はしき而巳ならず諸藝に通じて品性も宜い、兎もすれば女中共の瀧野に歸依するさへあるに、夫人の御覺え亦目出度ければ、澤野の眼には妬ましいとも憎いとも見えたらう、折もあらばとねらつて居たのである。

瀧野は疾く推知したので、障らぬ神に何とやら、注意して澤野の祟りを避けて居たのである。で自分の穿いたのが澤野の草履であつた、と知つた時、瀧野は思はず、しまつたと思つた。

「お局樣のとも心得ず、急ぎの御召に卒爾いたし、誠に申譯も坐りませぬ。何卒お許し下さりますやう」

「ナニ、申譯も坐りませぬ？　ハッハ成りませぬ。他人の物を無斷で遣うは泥棒ちやぞよ、其方武士の娘にも似ず手癖が宜う無い。何の今更穢れた草履が穿けやうぞ。エゝ、進せませうッ」

丁寧に詫びて上草履を揃へ直した瀧野に對する彼れが應酬は何等の狼藉！　澤野の裳裾飜へるよと見る間に、足蹴にされた上草履は宙を飛んで、玉のやうな瀧野の優頰にハッタと當つた。

「無…無禮な」

「何じや、泣き居るか、口惜しいかハッハッハ」

（五）不審しき文箱

部屋に歸つた瀧野の瞳は異樣に血走つて、決死の覺悟は固く結んだ唇の邊にも現はれた。

「辰よ、夜中太儀ながら矢の倉まで、急用なれば直ぐに頼みます」

辰女は退出後の主人の只ならぬ容子を怪しんで、

「アノ御實家までの御用とや、いと易き事乍ら、早や夜も更けて明日と云ふも一刻ばかり、明日は早朝行て參ります程に……」

云ひも終らぬ中に

「何と申す、急げばこそ頼むなれ、女主と侮るか」

瀧野は何時になく氣色ばんだ。

主人の容子心得ねど、再度の仰せなれば此上逆ふ事は出來ない。

辰女は手早く身仕度をして館を出た。

（六）胸さわぎ

辰女は毛利甲斐守が家臣、松田八介の娘で、侍女には惜しき天性の麗質に揭て加へて、忠實かに勤めるので、瀧野は身味の妹の如く彼女を愛して居た。

その人が決死の場合である。蟲が知らせたと云ふのか、彼女は和田倉御門の邊迄來ると、俄かに胸騷ぎがして主の身の上が心元ない。と思へば實家への御用と云ふ文箱も何となく氣に掛る。

辰女は意を決して文箱の封を切つた。

講談

鳥居強右衛門（八）

大島光利口演

左右より切りに云ひ聞かせられしにぞ強右衛門胸中にセゝラ笑ひつゝ、さても〳〵甲州武士の腸も腐りしか、かゝる事にて武士道の教を破る事と思はるゝか、吾が爲には幸先よし、只鐵砲の合圖にては城内に知れる筈もなし。さなり〳〵と合點て、表面は感謝の色を現はし、愼で顏を擧げ　強「何と云はれる。偖は御指圖通りいたしなば我が命を助けらるると、大音揚げ　強「如何に城内の方々よ、心を靜めて聞候へ。はや岡崎城には織田信長公の大軍が既に昨日入城せり。德川侯と合し人數は四萬を下らざるべし。三日の裡には後詰あるべし。今暫の御辛抱なり必ず無謀の戰を爲さるゝな、後詰を以て一擧に戰ひ、卑怯の武田を滅されよ、武道に盡たる強右衛門の一身、コレ今生の名殘なりと聲高々と呼はれば、アッと驚く、雜兵ども、鳥居を其所へ叩き伏、口を掩て見たれども約束に違ふ案外の申し條、其儘陣中に引來れば勝賴齒嚙をなして地團太踏、憎き下郎の振舞なり、是れ良策と思ひしは却つて味方の不利なるぞ城兵どもの懲戒に直に磔にかけよ、といきまき荒く宣へば、アナ無慘ヤナ、精忠無二の鳥居勝高、之を裸になして柱に縛つける。

所は何ほふ荒海原、城内より幽に見える。今茲に誅戮なさんと云はぬばかり。左右に見ゆる大身の槍。今や脇腹に突立んと爲る時、強右衛門大の眼をみひらきカラ〳〵と打笑ひ　強「甲州武士、瞳を定めて眞の武士の最期を見よと云ひ終つて城の方へ向ひ大音に呼はるやう

吾が君の命に代る魂の緒の　何に厭ひけん武士の道

此の歌を二回より三回目に突出す槍。ほとばしる血汐、可惜勇士は遂に絶命したるが、忽ち後詰來つて、内外相應じて戰ひ、武田の總敗軍に歸し、天目山に勝賴の亡びたるも、蓋し長篠の大敗に胚胎すると申すべきか、強右衛門輕輩なりと雖も、義を金鐵の重に比し最期を遂る。今猶長篠に鳥居山新勝寺と云ふ一字の寺院殘りて長へに其忠魂を弔ふ。

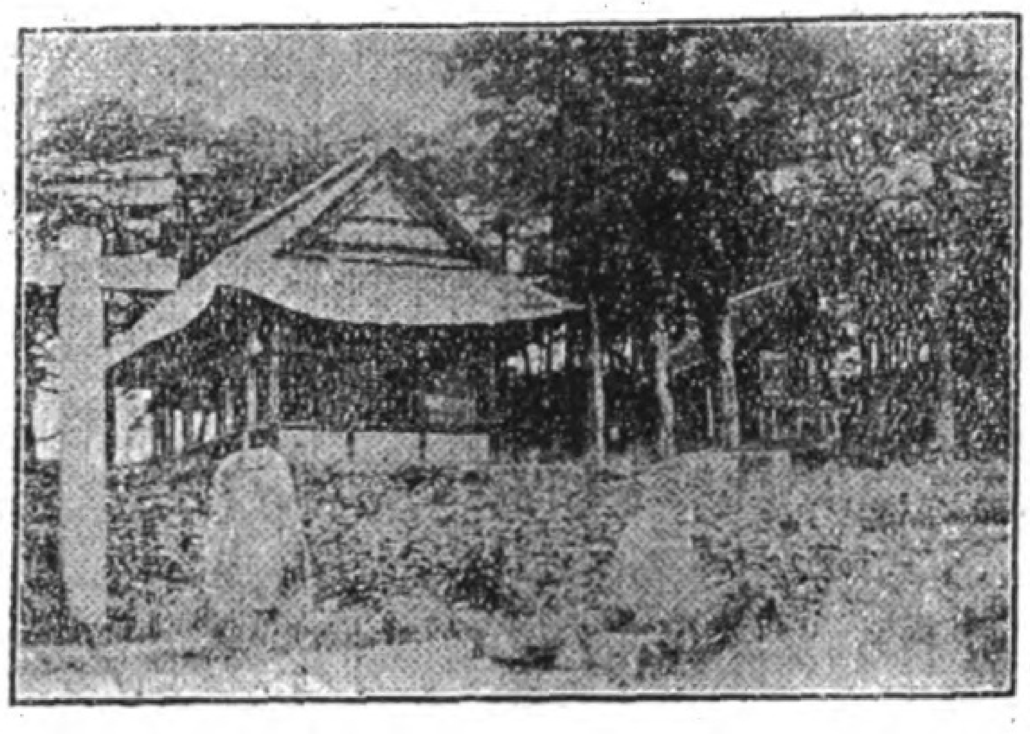
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界文學物語

女は何が欲しいか（上）

早稲田文學士　かをり生

今から六百年ばかり前のこと、英國にチョーサーと云ふ大詩人がありました。彼は實に英國詩家の始祖と云はれたほどの人で、其の不朽の名作『カンターベリ物語』と題する叙事詩は、英語を以て書かれた最初の詩であり、又小説であるとまで稱へられたものです。大體の趣向は當時は數多の男女が打連れて、四國八十八ケ所詣りのやうに、カンターベリーの



甲斐酒折の宮

トマス、ア、ベケットの宮殿に參拜する風習でありましたが、詩人チョーサーが其の巡禮に出かけた時、適々三十名ばかりの同行者がありましたそれが悉く職業なり階級なりの違つたもので、愈々出發すると云ふ時に當つて、旅は道連れ、世は情、一同で一處に參りませう、がさて、旅は憂ひもの辛いもの〻譬への如し中々退屈なものですから、行きと歸りに一人つゝ實見談でも想像談でも、面白さうな話をしたらば、氣も紛れて道も果取りませうから左樣なさりませと、宿屋の主人が云ふまゝに、鬮引で順を定めて色々の話をした、其の事を書いた詩です。人柄が違つてゐる丈に、話にも變化があつて面白く、前に譯してみた『女は何が欲しいか』と云ふ話は、湯屋の神さんが物語つた事になつてゐます。

何でも神さんは四十ばかり、亭主を五人も變へたと云ふ如才者、歩きながらもまめ〳〵しく、やれズボンが卷れたの、やれネクタイが曲つたのと、世話を燒いてゐたのが、愈々自分の段になりてから「私アお喋舌は大の不得手だけれど」なんかんと、柄に無い謙遜をしながら次のやうな話をしました。面白かつたら皆さんのお樂み、ハテ何うでせう。

昔々、と、例のお伽噺の切口上。アーサー王の御代のこと、一人の騎士が或る小川の岸を通つてゐましたが、フト花のやうな美しい少女を見とめて、あまりの可愛さに、思はず知らず馬から降りて、嫌がるのを無理に其の頰に接吻をしました。けれどもアーサーは嚴格な明君でしたから、婦人に對して無禮をした者は悉く死刑に處する事となつてゐましたが、其の騎士の仕打を聞かれて、怪しからぬ無禮者だとあつて、直に死刑の宣告がありました。けれども騎士もホンの一時の出來心、殊には年も若く、國家には十分役に立つ人でしたから、女王は殊に氣の毒がられて、王に向つて頻りに助命をされました。で、王も仕方なく、「さらば任意に計らへよ」と、女王の手に委ねられたので、女王は直ぐ樣件の騎士を喚び出し、

「今日から一年と一日の猶豫を擧げますから、世界を旅行して、

女は第一番に何が欲しいか

と云ふ事を聞き出してお歸りなさい。其の答が出來たらば貴方の命は助かる代り若しも答が出來ぬとあつては、氣の毒ながら死刑を執行します」と云ひ渡されました。騎士は仁慈深き女王の言葉に感激して、難有くお受けをして退出はしたものゝ、「女は何を第一に欲しがるか」などゝ云ふ事は、恰も雲を摑むやうな話、何の的途も無いながら、命と引換の大事なこと故、兎に角馬に乘つて世界漫遊の途に上りました。

「女は何か欲しいか」「女は何が欲しいか」――ハテ面妖な話だ哩と、騎士の口の内に操り返しながら、謎のやうな問題を出逢ふ女に訊ねてみました。女と云ふ女は、盲目でも阿呆でも、猫でも杓子でも――杓子には女がありませんが――引つ捉へて訊いてみます「貴女は世界中で何が一番お望みですか」「一體女は何が一番欲しいのでせう……」と、同じ事を飽きもせず、百人、千人、萬人と、根限り問ふてみました。果して何が欲しいと判りましたらうか、次號の出るまでに一つ皆さんで考へて御覽なさい。

阿部彦四郎商店
東京淺草茅町淺草橋際　長電話下谷一九一二三
富貴竈
富貴式風呂釜
洋食器　食卓用品
石油瓦斯コンロ
鐵瓶湯沸類
目録進呈

孝女お市

物集梧風作

今から丁度、二百年程前のお話で御座います。大阪の堀江の橘町に永年住居して居る太郎兵衞と云ふ人が御座りました。太郎兵衞は居船頭で御座ゐまして、自分の持船の船頭に新七と申す者が御座ゐました。

或る年の事で有りました。太郎兵衞は船頭の新七に言ひ付て、出羽の秋田に遣つて、米、や他の雜穀を許多積み込んで其の運賃を取つて大阪まで運送させました。

丁度、其の船が大阪に着く三日許り前に、大暴風雨に逢ひまして、恰も木葉の如く揉まれ漂ひて今に沈沒して終ひそうに成りましたから新七は必死に働いて檣を切り倒したり。檝を碎ひたりして、やつとの事で沈沒を免れまして生命を助かりました。

其處で新七は考へますのには、此度の嵐では多分、沈沒した船がある中で、九死一生を得た事であるから、此の地の人々は乾度、此暴風雨で難船したと思ふて居るでせうから、自分の助つた事を知つてる人も無からうと思ひまして、茲で惡い事を考へ出しました。

新七の思ふのに、幸にも猶、未だ米や、何かゝ多く殘つて居るが是は人の知つて居る事で無い事であるが而し、有りの儘に言ふて終まふと米主にも足り無い分を拂つて遣らなければならぬ、又船の損所を作い直しを仕なければならないから其の費用も少ない金では無いから、それよりいつその事に、皆船と一緒に海底に沈んだ樣にして終うを、と。思つて、密に殘りの米や穀物を殘らず賣り拂つて、金に換へて、船を水船として、大阪に返りて來まして、夜中に太郎兵衞の家に參りまして、太郎兵衞と逢ひて、實は惡い事とは存じて居りましたが、斯樣に取り計ひました、と申して米と換へた金を取り出して太郎兵衞の前に置きました。

太郎兵衞も惡い事とは知つて居りましたが、元より、支那賢人の孔子とか楊震とか云ふ樣な賢人はありませんでしたから、太郎兵衞は眞夜中の事では有るし、人も皆無い者と思ふて居ります、事ですから、太郎兵衞は其の金包を取り「まあ其れは宜い事をして呉れた、」と言ひながら文庫の中に納めて、新七に向つて、「是れを他人には洩すな、」と言ふて深く隱して終ひました。其の翌る日に人を遣つて彼の水船も賣りて終ひました。其の後にいろ〳〵と難波船の手續をして、奉行所に差し出しまして、其處の公法に懸けて皆な濟ませてしまひました。

滋養糖
獨逸醫科大學教授ソキスレット氏創製
Kinder Nähr-Zu
本品は小兒哺育用最良の滋養料として本邦小兒科泰斗弘田博士の紹介せられたるものに之あり牛乳に和して乳兒に與ふれば母乳と同一の効果を奏し胃腸病兒に用ふれば胃腸を強健にするの効あり目下帝國東西大學小兒科を始め瀨川博士東京小兒科病院其他各家庭に於て盛んに賞用せらる
全國到處の藥舖食料品店にあり
東京神田美土代町四ノ五
和光堂
電話本局一六四八番
振替貯金口座一四九五九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梨本兩宮殿下の御歸朝

梨本宮守正王殿下には三ヶ年の歐洲御見學を終らせられ妃殿下御同伴、渡邊式部官、安藤御附武官、櫻井御用掛、臼井、武原兩家從を從へ去月二十九日午前九時新橋着汽車にて御歸朝あらせられたり宮邸にては午前八時二十分より御迎への爲め姫宮方子女王殿下を始め合扶の人々新橋に赴き鍋島家よりは侯爵夫妻及び妃殿下の令妹前田家よりは侯爵夫人美子(妃殿下の姉君)方々も御出迎へ申し皇族にては伏見宮、東伏見宮、同妃、伏見若宮妃、北白川宮、朝香宮、東久邇宮の各殿下及び東宮、富美宮、泰宮、閑院宮御使等にて其他陸海兩相文武官等數百名の奉迎者ありて驛の賑ひ一方ならず斯くて定刻御着車あり渡邊式部官の御先導にて妃伊都子殿下先づ御下車御機嫌美しく一同に御會釋あり東伏見宮妃殿下と握手されつゝある時守正王殿下には陸軍中佐のカーキー色軍服を召され威風颯爽たる英姿を現はし給ひ先づ各宮殿下に御對面無事御歸朝の挨拶を受けさせられ徐々驛前に進ませ給へり承はる處によれば兩殿下は東伏見宮兩殿下と殊に御親しき由にて東伏見妃殿下は御着車前より梨本宮方子女王殿下の御手を引かせられてプラットホームに入らせられしが如何にも御懐かしき有様にて種々物語られ梨本宮妃殿下も殊の外御機嫌美しく王殿下よりも遙かに先に進ませ給ひ妃宮の手を引きながら頗る御活潑に御進みあり少し後方に居給ふ東伏見妃殿下を振返り〳〵して物語らせ給ひ尙奉迎者一同に對して一々鄭重なる御答禮をなし給へり又王殿下は伏見宮東伏見宮の間に居給ひ沈着の態度に物語られ徐々驛前に出で給ふや直に妃殿下と馬車に御同乘向ひ合せに姫宮を乘せ給ひ櫻井御用掛御陪乘申し上げ御歸邸相成りたり此日妃殿下には純白の御洋裝に花美はしきボンネット戴かせ給ひたり。

日誌

活きた社會、活きた世界

△七月十五日　波斯の内亂未だ治らず皇帝は露國公使館に避難せりと△英國潜航艇沈没せりと△藪入にて各地市中賑はし△獨逸にてはビユーロー公宰相を辭し、ベートマンホルウエツ博士新に宰相に任ぜらる△十六日　梨本宮殿下旅順各地御視察遊ばさる△東京は暑氣甚しく九十一度四の高度を示せり△十七日　久邇宮殿下幷に同妃殿下には英國バッキンガム宮に於ける舞踏會に臨まれ英國皇帝の御行列と共に歩まれたりと△波斯に於ては新政府組織せられ皇太子王位に即けり△希臘エリス州に地震起り多大の死傷者と大壞廢を來し家屋約五百軒破壞死傷百五十名に及べりと

△十八日　東久邇宮殿下富士登山遊ばさる△福井縣下にて四百年以來の歷史を有し半ば石造の九十九橋は今回全部木橋に架代へられ本日渡橋式執行見物人三萬餘人△高崎第十五聯隊にては同地にて野外演習中七十餘名の日射病患者を出し六名死亡す△横濱にて降雹あり最大の者直徑約一寸厚さ六分△福岡古河炭坑爆發

△十九日　梨本宮殿下清國より韓國へ成らせらる△幕末の俊傑として榎本武揚、大鳥圭介諸氏と並び稱せられし荒井郁之助氏七十四歲にして逝く

△二十日　富士山にては莊嚴なる山開式を擧行す△大阪の醫師緒方惟準氏死去す氏は故洪庵先生の二男

△廿一日　米國テキサス州に浸水あり大損害を及ぼせりと△佛國にてはクレマンソー内閣辭職せり△英國政府は千九百九、十年間に戰闘艦八隻を增艦することに決定す

△廿二日　福岡古河炭坑内の瓦斯爆發二名即死し四名重傷十一名輕傷を負へり

△廿三日　東宮殿下上野へ行啓金工協會及大日本選書獎勵會に臨まれ少年少女は御前揮毫の光榮を荷ふ

△廿四日　清國甘肅省は旱魃の爲め饑飢に陷り餓死者一萬に及ぶ△希臘にては土耳古に親和なるラリス氏を首相とせる新内閣組織せらる△富士山に雪降る

△廿五日　久邇宮殿下には英國ヴィクトリア大十字章に叙せらる△日韓新協約發表せらる△富山縣立山にては山開き執行さる△東宮殿下には葉山へ行啓遊ばさる△梨本宮殿下韓國より下關へ御着更に嚴島ミカドホテルに投宿遊ばさる△伊勢灣にて艦砲射擊實施中なる朝日艦砲彈破裂し即死四、死亡一、輕傷五を生ず

△廿六日　盛岡沼宮内町に大火あり百五十餘戶燒失△青森縣下東津輕郡小湊に大火あり九十一戶燒失△青森中津輕郡千年村部内山林より山火事を生じ十七日以來本日に及ぶ△佛國にてはブリアン氏内閣を組織す△モロッコにては西班牙人と土人との間に激戰あり△土耳古にては憲法紀念祭國都にて擧行さる

△廿七日　西班牙バルセロナ市に於て戰爭反對一揆起り暴徒は學校、教會を燒き又鐵道電信を切斷し佛國との交通斷絶さる△第一師團步兵第一聯隊及第三聯隊習志野原頭にて特命檢閱中日射病患者三十九名を生ず△連日の降雨に清國鴨綠江出水支那人市街全部浸水す

△廿八日モロッコ國リエザア及バーセロナに於て激戰あり西班牙人は土人と戰ひ死傷多數なりと

△廿九日　三ヶ年の歐洲御見學を終はせられし梨本宮守正王殿下は妃殿下と共に歐洲及清韓御視察の上本日御歸朝遊ばさる

△三十日　英國御漫遊中の久邇宮同妃殿下には來る十月開催さるべき米國紐育州ホドソン河發見三百年紀念祭に參列せらるゝことに治定さる

△卅一日　夕張炭坑爆發即死一、重輕傷七名

家事問答

皆さんから御質問を歡迎致します

問　洋食に用ゆるソースの製造法を伺ひたう御座います(麴町愛讀者より)

答　ソースとは全體醬汁のことで、日本の醬油と同じやうに、肉類及び野菜に注ぎ、或はプツチング等にまぜて使ふのでありますから、その種類も幾百通りと云ふほどであります。お問合せのは何のソースか分りませんが、こゝには時節柄トマトソースの製造を申上げることに致します。それは赤茄子十個に、三個の丁子少許の胡椒末、玉葱を刻んだものと、セルリーの嫩芽等を加へて能く煮たる後。その液汁を鍋中に濾入れ鷄卵大のバタ、及び大匙一杯のメリケン粉を混じたるものにて、滑かになりたるを俟つて使ふのです

問　黑色甘味のお多福豆の煮方を伺ひます(同上)

記者より　前記の御質問に對し、御存知の方は何卒ハガキで記者まで御知らせを願ひます。

再び味噌の貯へに就て　岩手の渡邊さんの御質問に對し前號北海道札幌の野間登代子のお答を掲げましたが、同姉は尙ほ親切にも次のやうに書添へて送られましたから、左に掲げます。

毎日使用分の味噌は必ず別器へ小出しすべし、小出しの後は平に押付け鹽砂糖ふり掛るを忘るべからず。なるべく桶ふちへ多き程よし。ふろぼけ澤あん又鹽漬物の茄子、ちその實を細々に切り、麻袋に入れて、毎日使用の小出しかめの下へ入れ置けば二三ケ月にて食するによろし。

●家庭及學校に於ける歷史講話の絶好資料●

寫眞解題　加藤清正

熊本寫眞協會出版　特價壹圓送料八錢

●代理部　愛國婦人發行所●

音尾一等軍醫新案

美顏タオル

見よ

見よ獨りで最も簡易に美顏術の出來るタオル

定價

特製(美顏營養料二百五十日用分付)金壹圓

甲種(美顏營養料百五十日用分付)金六十五錢

乙種(美顏營養料七十五日分用付)金五十錢

送料市内は御報次第無料配達地方は送費八錢申受(二個迄)

○美顏タオルは微妙なる理學的研究により考案せられた、特殊の裝置(イロハ)あるのみならず我國從來の化粧料と異り、顏面皮膚營養、發育、消毒等の性質を有する、効力偉大の新原料を配合せし、美顏營養劑添附しあるにより、五日目毎に洗面の際之れを使用すれば、藥理の作用にて毛孔中の不潔有害物を清拭し、顏面生彩を艶美ならしめ、皮膚を營養し血行機能を旺盛ならしめ、ニキビ、アセモ、ソバカス、白粉毒等を除去豫防し、且芳香馥郁心神を爽快にす、苟も衞生を重ずる男女は、常に家庭用として本品の如き最新簡易の美顏器を用ひ、第一に顏面皮膚を營養艶麗ならしめされば、如何なる精良高價の化粧料を用ふるも、恰も鐵に鍍金するが如く、到底容色を艶美ならしむる事能はざるは、勿論、知ず識ず厭ふべく恐るべき病源を釀すのみである。

發賣元　東京市京橋區新富町二丁目五番地　合資會社　伊藤商店　(電話新橋三九四一番　振替口座東京一八五四六番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

夏季雑題　大口鯛二選

天　横濱　鈴木まつ子

若蘆は風にそよぎて濱川の水にすゞしく月さしわたる

評曰、すゞしげなるさま見るやうに寫しいでられたり

地　備中　林　秀子

しげりあふ若葉おしわけて山のはをすゞしくのぼる夏のよの月

評曰、若葉おしわけてさし昇る月の心地よげなるかげには、花の雲紅葉の錦のひまもる光もおよびがたくおぼゆ。

人　大阪　山下　愛子

わか竹の葉末をすべる朝つゆにしとゞになりぬ庭の捨石

評曰、主の心まですゞしげにおしはからるゝ庭のさまにこそ

甲

川ぞひのやどはつきまつたまくらのしたに蛙のこゑをきくかな　岩代　西山佐保子

月かげのやどれる庭のいさらゐにこゑも涼しく水鷄なくなり　山口　末田貞節子

いれの花あさひに匂ふ山里の夏そうれしき風もかよひて　岡山　西村長子

水清き夏の小川にけふもまた笹舟うけて遊ぶをさな子　岡山　西村清子

かやりたく烟いふせき夕ぐれにいろすゞしくも夕がほのさく　豐橋　平松いと子

洗ひがみ風にまかせて百合の花もてる少女のゑまひうつくし　岩手　渡邊豐惠子

賤の女がとる麻糸のうみやすき夏は朝こそ命なりけれ　愛知　木原貞子

村はづれ楠の大木に風たちていなばのつゆの月に亂るる　丹後　鹽見芳雲

せみのなく青葉のかげの岩清水なつの旅路のいのちなりけり　山城　中とみ子

絹團扇わすれて舟をもどしけり松風きよきはなれ小島に　福島　舘田よしの

夏くさのしげれる野邊にたゝひとりけたがくさける大和なでしこ　神奈川　足立原とく子

若こもの汀にしげる川秋風にみだれてとぶ螢かな　滋賀　石井田すゑ子

おはしまの下を流るゝ水すみてたもと涼しく夕風ぞふく　山梨　加藤千代子

つり床をゆるがしながら松風の涼しき庭に文を見るかな　越後　松永繁子

尋れ來し人はいまさで夏萩の咲きみだれたる黄昏の家　下野　瀧澤秀子

月のさす板戸をあけて見つるかな水鷄のたゝくこゑとしりつゝ　山口　末田竹子

次回課題　**秋季雑詠**　大口鯛二選　九月五日發表

附記、出詠はがきの文字は、わかりやすきやう書かれたし、又選者の名を記入せらるべし。

俳句

青すだれ

天　備後　世應龜子

打水や禰宜の笛の音月の影

評、畫にせまほしき水村の社

地　岩代　須田尾上子

血に滲む繃帯暑き負傷かな

評、蒼蠅ばつと飛び集ひつ

人　東京　中山由子

時鳥病床の灯かすかなり

評、誰れやらの小説めきし風情かな

佳作

暫時待つ間を鳴く蟬や桔槹　備後　世應龜子

温泉の臭ひするや二人の夏浴衣　不明　山田多美子

王城の堀深ふして夏木立　東京　西村つる子

山寺の一筋道や栗の花　大阪　山下彌生子

白壁の土藏目に立つ百日紅　長門　蔦田眞子

子を寐せて更くる端居や夏の月　同上　同　上

薰風や襟を捲きし美人の眼　備後　世應龜子

涼しさや月の松蔭いく廻り　東京　かづ子

夕顔や反古提燈のうす暗き　同上　同　上

宵に魅したる羽蟻かな　岡山　西村長子

稲妻や野末の小村ちらと見ゆ　下野　相馬八重子

家毎に納涼に留守の母屋哉　同上　同　上

さる人の歌思ひ出す蓮の花　不明　山田多美子

唐崎の松にかゝりて雲の峯　東京　西村鶴子

白蓮や物によごれぬ朝心　紀伊　土井ちとせ

御禊する夕は風もたゞならぬ　京都　露緒子

雲の峯湧出る谷や杉並ぶ　東京　武田つる子

市の子の來て引たがる鴨子哉　紀伊　土井しの子

門たゝく水鷄に夢の覺めにけり　三河　市川みとり

夕やけや空に染出す夏の色　岡山　西村清子

夕立を車夫の駈抜くきほひ哉　三重　莊司種子

歌人に何を囁く夏木立　京都　田中小草

庵の月叩く水鷄や人在らず　東京　山本ふみ

夏の日に照付られし毛蟲哉　同上　同上

蟬時雨薄暮の山路辿りけり　下野　瀧澤秀子

夕立やもやひ傘して京の町　東京　伊矢野たか

しうねくも來て逃のいて刺す蚊哉　東京　大橋政子

曉や紅蓮白蓮風涼し　備中　林秀子

短文

道づれ

特選　京都　露緒子

たま袖〳〵振り合ふ縁やありけんいと年は老いにたれど、床しさ忘れがたき嫗ありき。昔あらしの山櫻に紫の袖長の少女春はこゝとばかりの装して行人の目を止めけらし今もおもかげ美しう面わの何處にかほの見えて、きかまほしきその來し方。嫗は京なまり優しう、此邊の景色、昔よりは今見劣りする由語る。嵯峨より御室への山路にて行あへる嫗なり。我年を尋ねて昔ならばかねつけ初むる年ぞと云ひぬ。

評、とこしへにしらはにておはせ、とは云はずされどなほ兩三年は斯くておはしませ、惜しき少女姿にこそと、嫗は附け添ひて云ひしなるべし。

佳作

避暑せる友より　東京　佐野くに子

館山に今年は避暑せり、いざ來給への御文、嬉しさは嬉し、同じ學びの窓に生ひ立ちし友、あな白き砂青き松に身をゆだね、松ふく風を琴のしらべと、互に笑ひつ泣きもせんと、思ふ心ははかられど、さきつ日より父つ君病み給へば、また今年も共に遊ばんと叶はざりきと、筆もこの身のせつなさより、讀み給ふ時の御心いかに。

我は思ひぬ　東京　中村えい子

銅も熔けん日なり、某孃の否める父君無理に迫め、はては涙の中に母上とかして、妹君と二人避暑に出掛け給へるを、おこの沙汰と我は思ひぬ。ともすれば慮り勝なる心の胸にむち打たば、なんの無益に避暑などゝ思ふにつけ、泣きて迄も行かんとする心柄見え透きて憎し。

夏の月夜　横濱　鈴木まつ子

十一日の月は涼しく、私を照して居ります、それは滿月もよろしうムいますが、充つれば缺くると云ふ世のならひでムいますから、矢張り十二三日の月がよろしムいます、籠の鈴蟲はゆかしい聲で啼き出しまして月見草のやさしい風情、庭のやり水までもこの月を涼しく見せやうと流れて居ります。

舟遊び　京都　田中久燕

一行七人一艘の舟に打ち乘り、さらばと纜をとけば我舟は保津川を下へ〳〵と行く、受田の社をすぐれば流れ漸く急なり、こはいかに瀨を下りたるあたり、ばつとかゝるしぶき、夏夜の袖をうるほす、壯快いはん方なし、彼は鏡岩、これこそ名に負ふ書物岩とした顔に説明するもおかし、行くこと一里流れもゆるくなり、舟の歩みもおそくなれば、山また山の襞に、チ、とさびしさつくる蟲の聲、艪の音のみぞ寂しさを破りて聞ゆるに思はず口をつぐみぬ。

海水浴　丹後　鹽見芳雲

綠濃き浦曲の松が枝、長く海底に落ちて、夕日に映ふところ、我今日も赤汐浴びすなり、頭のみ出して遙かに望む青葉山、三本舘のそれにも似て、頂に雲のかゝりたる、墨繪さながら、心の美もかくてこそと思ひつ、沖には低う飛ぶ鷗の群、遠く漕ぐ舟の人は、海の上を歩むやうに見ゆ、宮津通ひの汽船も、今歸へりぬ此時つと冷氣覺えて陸に上る、夕日全く沈みたり

迎ひ火　東京　山本ふみ子

月なく星なき長月十三日の夜は、漆の如く白き煙の衣にて漂ひ來たるゝ佛の御姿もやと思ふ折ふし、ぱつと炎え上りて庭の一隅、圍める人の面赤鬼の如し、それも束の間に消えて、囁きと下駄の音のみ、我もとぬき足して近けば、魂切る姉の聲はすぐ笑聲になりて佛様ではなかりしと云ふ。

亡友をしのびて　京都　富田眞澄

過ぎし師走の十二日、枯草の上の霜白う、寒さ身にしむ田舍路を、靜かに引きゆく車の上より、見かへる人も見送る我も、互に袖をうるほせしは、病のために職を辭して、歸れる友との別れなりき、ああ其友は散りにし花の、後追ひて今は歸らぬ旅の空、如何なる夢をや結ぶらん、思へば去年の別れこそ、とこしへの別れなりき。

美しき友　豐後　河村たる

雨甚く降りて病める身の物憂き事限りなきを、之にも慰み給へとて持て來させたる盛りの山吹、枝もたわゝに咲きたるに露さへ雫と拂はさるが、云ひ知らず嬉しく將た女には相應しき美しの同情よと、感謝の念をとどめ得ざりき。

野より　下野　瀧澤秀子

朝の散歩にと野に出て申候見渡す草も木も露にぬれてきりぎりす遠近に啼き、桃色の山撫子の花もなか〳〵に美しく、男郎花女郎花咲く中に、露のひぬ間と愛らしき少女達、かりなり候松原をぬけ出で、畑に來て見れば、紫の茄子ちぎる女に逢ひ申候て、朝風に送られながら家路を辿り候、名高き鬼怒河原の景色は、また此次にゆづり御報申上べく候かしこ。

讀者くらぶ

美作神目の坂田元子様　其後はいかゞ遊ばしましたの近來は誌上に御言の花あまり咲せ給はぬやうですが、あまりの暑さになやみ居給ふか、はた外に御譲りありてか、少しは御消息給へや（西村長子）▲秋は葉月はじめから遠州舞阪の海水浴場へ參りますから、皆様方の中御都合のよろしい方は是非御訪問を願ひます、少女島の景色は實にいゝんですよ、宿所は記者様から伺ひ下さいまし（山下彌生子）

嫩葉會報告

次號には露緒子姉及佐野くに子姉のうつしえを掲載すべし夫を始めとして會員諸姉のうつしえ引續き掲載する筈なれば、未だ御送付なき諸氏は、此際幹事宛御送りありたし。▲詠草は誌面の都合上今回だけ掲載を見合せたり▲會員宇佐美駒子氏は客月中東京より千葉へ移られたり▲瀨高やす子氏は目下服喪中▲神澤幸子氏は常陸より歸京せられたり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●痔疾（痔核 脫肛 痔瘻）新注射療法
！切除燒灼等の外科手術に依らず無痛注射法にて根治せしむ
東京神田 猿樂町二十五番地 神保町停留所附近 電話本局二二七八番
診察料不要 入院室設備
橋本醫院

梅毒科
●淋病 生殖器障害（泌尿）
●痔疾 は最新無痛注射療法を以て速に根治せしむ
●婦人科一般
院長 醫學士 田島丈作
其他各科專門醫學士擔任診療
京橋 彌左衛門町壹番地 數寄屋橋又は銀座尾張町停留所附近 電話新橋四五五七
診察無料 入院隨時
濟生堂醫院
診察自朝八時至夜十時

●內科一般（殊に呼吸器病 諸傳染病）
●外科
●入院隨時
東京市神田區北神保町八番地
神保院
院長 鈴木馬三郎
電話本局七〇一番

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保德太郎
副醫 學士 田代謹二
婦人科 產科 每日午前診察
婦人科的外科 外國留學中
婦人生殖器病 泌尿器病及內科一般 火木土午後診察
●施診火木土午後一時至二時
婦人科產科 榊病院
麹町三番町三三（電話番町三九五）

產科婦人科 小兒科
女醫 鷲山彌生
診察時間 院長 每日午前八時より 醫員 每日午後三時より
內科部長 醫學士 武智基造
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院 電話番町二二五七

小兒病診療 宅診午前 往診午後
淺草區新福井町二（死町電車停留場際）
醫學士 內田愼太郎（電話下谷七一八）

●小川產科婦人科醫院
●不姙症 ●流產豫防 ●入院隨時產室設備
四谷區荒木町四番地（電話番町八六三番）

●婦人病專門
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科婦人科 院長 岩佐新
外科 ドクトル醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯二郎

院長診察月水金木前 松田醫學士診察火土前 駒者施診火木前 入院診斷隨時應需 松田林兩副長は目下當院に在勤
電本八八八（病院用） 八九八（私宅用）
東洋內科醫院
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
院長 醫學士 高田畊安
神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）
南湖院

內科一般 午前宅診 午後往診
東京神田美土代町三丁目十七番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世

にきびをとる有効化粧液
チプリ
到る所に販賣し升
廿グラム入 二十五錢
東京本石町 松澤常吉

ムスク香水
麝香獸印 大瓶壹圓 中瓶六十錢 小瓶二十五錢
芳香の永く保つ點にて高評也
東京日本橋本石町四 松澤常吉
（注意）
近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人より寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵劵添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四 河村愛子

小兒科專門 腺病質、胎毒、貧血 小兒喘息、百日咳 小兒皮膚病、
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋數寄屋町一（吳服橋外）電本百八十

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町 株式會社 十五銀行 電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町 同 日本橋支店 電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

いたづら小僧日記譯者 佐々木邦 訳 定價參拾錢 郵稅四錢
おてんば娘日記
いたづら小僧日記 賣行きの盛況は實際近來の出版界に類が無い五百部千部と一時に註文する書店も多いので始終製本が間に合はぬ位である此時に於て其妹姉書たるオテンバ娘日記新に出た
面白きこと彼と同じく天下の奇書たること彼に等しく而も其限りなき面白味が彼とは全く別樣だ
いたづら小僧日記
定價金四拾錢 東京染井傳中 振替三五五番
內外出版協會

脫毛自在 美容材料
○剃刀不要……は剃刀、毛拔き等を全く不用の兇器たらしめたり
○剃刀不要……は美貌を作るに尤も簡便且つ安全に脫毛し得る配劑の妙なり
○剃刀不要……は人手を借りずして任意に脫毛し得を以て御婦人の富士の額に月の眉水際立ちたる襟脚の生へ際などを作らるゝに尤も妙なり
○剃刀不要……は刄物を用ゆる事不能場處即ち脇下、股間、肛門杯の毛を脫するは更に妙なり
○剃刀不要香水の代用にもなります
○本品に付て御疑ひの方は直接に御來行あらば喜んで無料にて實驗を貴覽に供す
定價 大瓶壹圓 小瓶五十錢
東京市神田區仲猿樂町二十一番地
日本美顏洋行
○脫毛施術御希望の御方は本行へ來られし又市內に限りはがきにて御報次第出張施術の依頼に應ず

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

最古醤油之元祖

上

開業貳百六拾五年

釀造元　下總銚子町　濱口合名會社　振替貯金口座五〇貳壹番

最上醤油（チカサ）

品質優等ニシテ調理ニ適ス

發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

釀造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛

醫家處方調劑

藥品の純良　調劑の正確

醫師ノ處方ニ係ル調劑ハ必ズ調劑部主任之ヲ擔任シ親切丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス藥局トシテノ設備亦大ニ完全シ既ニ久シク大醫諸先生ノ信認ヲ辱ス藥品ハ試驗部ニ於テ嚴格ナル檢査ヲ施シ全ク純良品タルヲ確認シタル上之ヲ使用ス

神田區今川小路三丁目角　尾澤純良堂

藥劑師　大西橘三　藥局

藥劑師　田中義廣　藥劑師　長谷川贇

電話本局一五一八番

東洋一の商品陳列即賣館　第一　第二

帝國博品館

第一館　新橋角　電話新橋一六五二番　二二六一番……あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す

第一第二館内各店共通商品切手發賣……御買上品は市内無賃で配達致します……

第二館　上野廣小路　電話下谷五三六番三〇四四番……館内あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり

喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髪店。休憩所。階上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

內科專門　杏雲堂醫院

神田區駿河臺　電本一六六九

院長醫學博士　佐々木政吉

小兒病一般

京橋區南鍋町風月支店斜向　電新四八八番

宅診　午後

醫學士　福田謙之

色白く艶をだす　松澤ホーサン石鹸（大形　廿錢　小形　十錢　新小角形　十錢）

◎近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ◎市內賣藥小間物化粧品店にあり

東京本石町四　松澤常吉

大活動の銷夏號　東洋幼稚園（岸邊福雄君編輯）

少女の友

◎親兄弟を思うて儉約して居た少女の實例…　▲艱難辛苦して夫の仇を討つた孝女美談…　◎小兒用ジャケットの編み方　△理科問答　▲顔を洗はない少女の運命を書いた黑姬物語　◎小品文藝

◎八月一日發行　第九號

◎郵稅共拾壹錢　半年增刊共七冊七拾錢（郵稅共）

立敎高等女學校教員黑川よし子　日本女子商業學校渡邊講師

幼年の友

◎各部彩色石版と寫眞版にて上品なる敎育的繪本です

◎四五才以上十才以下の幼男幼女には最も適切なる繪と話で持切です早く御覽

◎八月一日刊行　第八號

一冊拾錢郵稅五厘　半年分五十八錢郵稅共

東京京橋南紺屋町　電話新八七四　實業之日本社　振替貯金三二六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醬油
キハク印
於淡路島博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　(電略號(キハク)又(ハク))
東京支店　日本橋區小網町三丁目　電話浪花五七七四　中野長兵衛

▲意匠嶄新破格廉價札付
儀式用鼈甲 櫛 笄
象牙蒔繪 櫛 中差
金銀寶石入 簪 指輪
帶止 ピン
珊瑚珠翡翠 玉 替
根掛
化粧品

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價
并に三拾錢均一物は御進物用として益好評
御便利為御持古るしの小間物引取交換仕候
東京市神田須田町(電話本局二〇七六番 振替口座二八一一番)
鼈甲 小間物商 三井屋德次郎
京橋區新橋際 博品館內支店
神田裏神保町 東明館內支店

春陽堂發行
眉山全集
(全三巻)

上巻目次
黒染櫻、賤機、大村少尉、ゆく水、松風
袖頭巾、撫子、かゝり舟、
白藤、青嵐、三年味噌、左褄、網代木、

菊刊(上製)九百廿頁
上巻實價金一圓 郵税十六錢
◉帙入裝釘善美
▶東京日本橋通●振替一六一七◀

大黒天印
甲斐產葡萄酒
◉本邦釀造葡萄酒中尤も古き歴史を有する純粋生葡萄酒にして薬用に適し其品質の佳良なるは普く天下の賞賛を博する處なり釀造經過年限に依り左の三種とす
金線十年　銀線五年　赤線三年

宮崎葡萄液
◉長井、下山兩博士の指導の下に創製せる本液は滋養に富める葡萄の菓汁なれば他の飲料に比類なき卓越せる特色を有し毫もアルコール分を含まず芳香美味にして衛生に適し日常之を飲用せば消化力を助け筋肉を肥し滋養補血に偉大の効あり
◉中元御進物用としては尤も適當なる化粧箱詰及商品切手調進仕候

宮内省御用達
發賣元　東京日本橋通旅籠町　甲斐產商店　宮崎光太郎
振替貯金口座一九三七番　電話浪花八七〇番

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候
宮内省御用達
玉寶堂
電話下谷(特九六五番 一二四四番)

婦人畫報
八月一日發行　八月卷
價廿五錢 税二錢　六册税共一圓五拾錢　十二册同二圓八十八錢

◉若き妻 石版美人畫 岡落葉筆
◉兩殿下 御徒歩公園に入らせ給
◉奥樣の一日(寫眞十葉)
◉跡見刀自(家庭に於る)
◉令孃鑑
◉婦人風俗二
◉犬踊りとお相撲
◉御漫遊中 梨本宮同妃兩殿下
◉高平大使
◉瓜生中將一家
◉露國觀光團
◉女水泳
◉老人優待
◉明治子守
◉伉儷
◉花會
◉其他
◉自轉車上の山階宮二王子殿下と姫宮殿下

▼小説を讀む婦人の覺讀…三上博士
▼舊師中島歌子…花圃女史
▼上毛野の妻…遠山女史
▼別荘生活改良…松原所長
▼訪問日記
▼懸賞和歌
▼賢夫人の話…大町桂月
▼御住居拜見…記者
▼歸省前日
▼東京附近海水浴場…三島博士
▼夏の化粧…高橋夫人
▼氷の話
▼料理煮汁…池田博士
▼心の鎖夏法…山脇女史 鳩山女史
▼化粧店の客…女店員
▼浴衣と丸髷…海賀變哲
▼料理法
▼花と衣裳
▼跡見刀自の一日…記者
▼小説誕生日
▼八月の歌

東京麹町區飯田町四ノ三　電話番町二三三九　東京社
賣捌所　全國の書店にあり

家庭の重寶
世界好評

専賣特許 名和式蒸燒器(一名テンピ)
在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋料菓に最適當の器なり、
大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
(説明書往復はがき)
到る處(金物店洋食器店)にあり
東京市日本橋區蠣殻町二の一五　名和商店
電話浪花一七七　振替貯金一〇二五四

夏期必讀の婦人雜誌は本誌なり
婦人世界
八月一日發行　第四巻第九號
正價一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分郵税共一圓五錢　一年二圓五錢

△女學生は暑中休暇に勉強せよ…山脇房子
△男學生を監督する米國女學生…永井荷風
◎子供研究…波多市松
◎女樂師の歸朝談…神戸絢子
◎弦齋夫人の料理談
◎京都婦人の神願み
△病の良人を看護せし實驗…國木田治子
△婦人に水泳を教へた實驗…大竹森吉
◎良人の言葉を誤解して
◎不幸になりし婦人…村井弦齋
◎東京の女學校は娘の性質に合はぬから退校させた…前警視總監 關清英
△空中飛行船發明の苦心 良人の…ハミルトン氏夫人
△十人の子供を養育せし實驗…弘田博士夫人
◎大阪の棚橋刀自のお講義…松本貞子
◎清國生活實歷…山本絹子
◎講談…細川風谷演
△實父母に虐待されたる子供を保護せし話…原胤昭
△監獄の内の女囚生活…教誨師 河野孝純

發行所 東京京橋 實業之日本社　郵便振替口座 參貳六　賣捌 全國各地

明治四十二年八月五日發行(毎月五日廿日二回)
(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要)發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區榎町 日清印刷株式會社

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殻町 春風舎
京橋南紺屋町 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社
京橋區 廣告社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

總裁殿下御慶事　客月一日評議員濱尾作子、東村粂子兩氏は本會を代表して御慶事御祝のため、總裁殿下御邸へ參上せり。

巡回視察　客月一日より擴張委員八田一精氏は關西へ、庶務課長高松銕太郎氏は東北へ、會計課長杉原全德氏は北越へ孰れも地方狀況視察の爲出張の上歸京せり。

會計監督及事務長代務　客月廿六日佐藤正氏會計監督、敎養所長辭職御裁可相成しに付、顧問松井修德氏代務となり同時に事務長代務をも囑托せられたり。

支部近況

▽京都支部△

遺族癈兵慰藉會　客月一日午後零時三十分より京都市河原町通四條下る京都倶樂部に於て、市内軍人遺族癈兵慰藉會を開催せり、當日は梅雨中稀なる好天氣なりし爲、來會せる遺族二百二十六名癈兵四十名の多きに達せり、乃ち之が紀念として遺族癈兵に扇子壹本折詰饅頭壹箱宛を贈與し、且餘興として子供狂言、蓄音器、薩摩琵琶、琴、ヴアイオリン、義太夫、手打等の演奏を以て、慰めたるが一同は非常に滿足し、萬事不都合なく盛會を極め、午後五時閉會せり。

▽岩手支部△

歡迎式　當地新設騎兵第三旅團は本月一日より九日迄の間に於て轉入に付毎日到着時刻に笠井支部長を始め、各職員停車場に於て歡迎し、一般會員は市部は區域を定めて輪番に歡迎をなし、郡部近郷は隨意に歡迎をなし、以て將卒の慰安に勉めたり、到着は一日二回或は三回にして、歡迎員の勞苦も亦多大なりき、而して去十八日午前十時縣主催にて騎兵第三旅團入城歡迎式を市内縣社八幡宮境内に於て、擧行せられ、各職員幷縣下多數の一般會員式場に列して、歡迎の意を表せり、同日午後四時より南部邸内に於ける將校招待園遊會には、笠井支部長並に田中下田の副長及各職員を初め、重なる會員參列して、將校及同夫人の饗應に斡旋し、遠來の勞を慰し、主客歡を盡して無事散會したるは正に黄昏の頃なりき。

▽富山支部△

氷見郡幹事部　八代村分區にては去る六月十九日第壹回會員總會を同村永德寺に於て開催せしか支部より支部長代理として中村事務員及草野事務員の二名參列せり先づ午后一時開會第一鈴會員並遺族癈兵者の着席第二鈴來賓職員の着席第三鈴にて谷内分區委員は開會の辭を述べ續て支部長代理の祝辭に次て會員惣代の答辭あり次に軍人遺族並癈兵者に對し臨時救護金の贈與をなし次に新入會員八十七名へ協約狀の授與あり後ち松本幹事部顧問の一場の訓話及草野支部事務員の會旨普及演説ありて式を終りしが尙引續き同村内の死亡會員の追悼法會に移り鄭重なる讀經等ありて玆に全く閉會を告げしが出席者は約百五十名なりしと尙本日の餘興には會員一同へ福引の催ありて各々和氣靄々の裡に散會を告げしは同五時過なりき

愛國婦人會　各支部職員小肖

愛媛支部松山幹事部幹事 佩三等有功章　村井登免子

栃木支部那須郡幹事部長 佩二等有功章　田上こい子

青森支部幹事部幹事　鈴木安子

愛媛支部南宇和郡幹事部幹事佩三等有功章　中尾スヱ子

青森支部南津輕郡幹事部幹事　工藤まさ

熊本縣鹿本郡幹事部幹事　豐島貞枝子

愛國婦人會々員女子人口比較表

明治四十二年六月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
山口	三〇六	九二六	一、二三二	一、一六〇	二七、一五八	二八、三一八	二九、五五〇	五〇六、九二〇	五、八三	五三
石川	五四一	一、四四九	一、九九〇	四四二	一九、五五二	一九、九九四	二一、九八四	三八五、四七八	五、七〇	六六
山形	一七三	八〇二	九七五	六四一	二〇、八一一	二一、四五二	二二、四二七	四三九、六一八	五、一〇	一〇三
廣島	五三三	二、〇二五	二、五五八	一、三一〇	三〇、八一三	三二、一二三	三四、六八一	七四六、六五五	四、六五	一五
福岡	三一九	二、三八二	二、七〇一	七七二	三一、五一七	三二、二八九	三四、九九〇	七七二、七四三	四、五三	四
愛知	四九四	一、一一八	一、六一二	二、〇一〇	三三、八七五	三五、八八五	三七、四九七	八六八、五三八	四、三二	一三九
岡山	二三五	八九三	一、一二八	四六四	二二、九八一	二三、四四五	二四、五七三	五七七、二七二	四、二六	一三
兵庫	五五三	一、七〇〇	二、二五三	一、三七九	三三、〇一八	三四、三九七	三六、六五〇	八九三、七三四	四、一〇	一七
京都	四七五	二、〇四六	二、五二一	五八四	一七、七二五	一八、三〇九	二〇、八三〇	五二〇、三九五	四、〇〇	二二
島根	一〇九	三五二	四六一	三五三	一三、六四八	一四、〇〇一	一四、四六二	三六二、六三五	三、九九	一
神奈川	四二三	一、三四二	一、七六五	七七五	一七、四〇三	一八、一七八	一九、九四三	四九九、六二三	三、九九	七一
愛媛	一〇〇	四七八	五七八	三五二	一九、二〇二	一九、五五四	二〇、一三二	五一一、三九六	三、九四	四九
北海道及函館	三八九	三、〇八八	三、四七七	五五八	一五、七五八	一六、三一六	一九、七九三	五〇七、六二八	三、九〇	五七
富山	一三三	九三五	一、〇六八	二一〇	一三、三三九	一三、五四九	一四、六一七	三八四、九八二	三、八〇	五二
香川	二一六	五九九	八一五	五三一	一一、四〇七	一一、九三八	一二、七五三	三四七、八九〇	三、七七	—
熊本	二八八	二、六五二	二、九四〇	四六九	一八、九〇〇	一九、三六九	二二、三〇九	六一〇、四一一	三、六五	一二
青森	二二三	一、一六二	一、三八五	四五三	九、七八九	一〇、二四二	一一、六二七	三二二、二一一	三、六一	一〇
宮崎	八八	三四五	四三三	一八〇	八、二六二	八、四四二	八、八七五	二四七、二五二	三、五九	三
秋田	二八六	六七三	九五九	五七二	一二、五七四	一三、一四六	一四、一〇五	四〇三、九四六	三、四九	三
群馬	二二一	一、三三八	一、五五九	一九九	一三、二五九	一三、四五八	一五、〇一七	四五四、一七一	三、三一	三
静岡	一三六	六四三	七七九	九八〇	一八、八六〇	一九、八四〇	二〇、六一九	六四〇、八四八	三、二二	二一
長崎	一、二六二	二、三二六	三、五八八	一、一三二	一〇、七六八	一一、九〇〇	一五、四八八	四八九、三五〇	三、一七	三
佐賀	一三三	七八二	九一五	一六〇	八、八四四	九、〇〇四	九、九一九	三二七、七六八	三、〇三	二
栃木	二〇四	七四八	九五二	四三九	一一、八〇七	一二、二四六	一三、一九八	四五〇、一二六	二、九三	一二
鳥取	六二	二三四	二九六	一三五	五、七一五	五、八五〇	六、一四六	二一七、五四一	二、八三	八
福井	一四七	六八一	八二八	三二六	七、八六〇	八、一八六	九、〇一四	三二〇、一九四	二、八一	一九
大分	一二五	七二一	八四六	二九七	一〇、七二八	一一、〇二五	一一、八七一	四三〇、〇二五	二、七六	三
宮城	一九五	一、二七二	一、四六七	二〇五	一〇、二八九	一〇、四九四	一一、九六一	四四五、〇四七	二、六九	一二
三重	一二六	三一二	四三八	五四六	一二、八〇三	一三、三四九	一三、七八七	五二二、〇四三	二、六四	六七
長野	二〇一	一、一二五	一、三二六	九二六	一五、四五六	一六、三八二	一七、七〇八	六七四、七一五	二、六二	一三六
岩手	九二	五九七	六八九	二四七	八、三七四	八、六二一	九、三一〇	三六九、二七八	二、五二	一
東京	一、四六三	七、九二七	九、三九〇	一、一七七	一八、三三四	一九、五一一	二八、九〇一	一、一五七、五一七	二、五〇	七三
福島	二八六	一、〇八七	一、三七三	七六六	一一、六九七	一二、四六三	一三、八三六	五八二、一五六	二、三八	一
大阪	六五七	二、七七三	三、四三〇	八六一	一六、一九八	一七、〇五九	二〇、四八九	八六三、四〇六	二、三七	三七
徳島	八四	二八九	三七三	四五五	七、四一〇	七、八六五	八、二三八	三五二、六〇八	二、三四	六
奈良	三六	二五三	二八九	一三九	六、〇四三	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	—
臺灣	九五一	九五四	一、九〇五	八、一四一	二〇、九五一	二九、〇九二	三〇、九九七	一、四〇二、七七一	二、二一	—
千葉	一八一	八四二	一、〇二三	五二二	一一、九五八	一二、四八〇	一三、五〇三	六五六、七八二	二、〇六	二九
高知	三六	二一三	二四九	二四二	五、七一六	五、九五八	六、二〇七	三一八、二四五	一、九五	—
滋賀	一二二	三二八	四五九	五二二	五、五六七	六、〇八九	六、五四八	三六四、八六八	一、七九	—
茨城	六五	四六八	五三三	二六六	九、九〇四	一〇、一七〇	一〇、七〇三	六〇〇、四一三	一、七八	一
鹿兒島	一四五	一、一一〇	一、二五五	一九二	九、〇八三	九、二七五	一〇、五三〇	五九四、九八五	一、七七	八
新潟	三三六	八六九	一、二〇五	八〇三	一三、五七三	一四、三七六	一五、五八一	八九九、〇二一	一、七三	三七
山梨	五九	三三八	三九七	一八五	三、八一九	四、〇〇四	四、四〇一	二七二、一四八	一、六二	—
埼玉	八三	二九六	三七九	四四五	九、二九九	九、七四四	一〇、一二三	六二七、五五六	一、六一	三八
岐阜	一一八	七三五	八五三	二八三	六、四七九	六、七六二	七、六一五	五二〇、六五八	一、四六	二
和歌山	六四	二八〇	三四四	二〇六	四、二〇七	四、四一三	四、七五七	三五〇、〇六九	一、三六	一
沖縄	四四	三一九	三六三	四六	一、七六一	一、八〇七	二、一七〇	二三九、五二七	〇、九一	—
韓國	—	一、二一二	一、二一二	—	一、九八六	一、九八六	三、一九八	—	—	三〇八
海外	八六五	五六	九二一	四〇六	二八	四三四	一、三五五	—	—	一〇二
計	一四、三九五	五六、〇九〇	七〇、四八五	三四、四五五	六七五、五一七	七〇九、九七二	七八〇、四五七	二五、三一三、〇四〇	三、〇八	一、六三八

備考
（一）支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す
（二）北海道函館の兩支部會員數は合算して揭載せり而して函館支部會員數は特別五百三十一人（終身七十二人年賦四百五十九人）通常千八百三十九人（終身八十四人年賦千七百五十三人）にして他は北海道支部會員數なり
（三）韓國支部の報告は終身會員年賦會員の區別なきに付假に年賦會員の欄に揭載せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新築落成
九段看護婦會
產婆 船曳みき
業務擴張
麹町區飯田町二丁目八番地
電話番町一一〇四番

京都御料理
お多福豆
平野家東京支店
電話本局三千百三十番
東京日本橋區上槇町拾壹番地

見よ！　見よ!!
唯一の消夏の友
旅行の好伴侶
美術之日本
▲第一卷第四號八月五日發行定價金拾五錢
▲郵税金壹錢▲見本は郵劵拾貳錢を要す
▲美術工藝に關する卓說並に小說詩歌滿載
●發行所…東京市京橋區新肴町十三番地
審美書院
電話新橋三〇五五番

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 持阿彌

すいな
すいた
人形町通の
赤のれん
おばなや本店
電浪四三四五

佐藤洋々堂製の
ふけ知らず

右ふけしらすと名く「香水」を毎月二三度附れば如何に「ふけ」の多い男女でも年中一粒の「ふけ」を見ず且「ぬけ毛」となり「かゆみ」少しも無く倘頭髮の「惡癖」を直して良き「ふくれ毛」となる(無害大有効のもの)
◉日夜「かゆく」て、汚き「ふけ」は我身につらく「他人に不禮シカも「頭髮」を惡化し「ぬけ毛」を多くする大々有害物なり
◉定價(四勺入)卅五錢(一合餘入、大德用)七十錢、市內郵料五錢、市外郵送(箱代共)各十一錢、淸、韓、各卅三錢(郵劵代用)一割增
●代金引替の小包郵送は謝絶す
代理部　愛國婦人發行所

ちれもくせも　二大奇法の　もはへうけあい
妾の手がけた方で此病にて諸種の買藥して癒えぬ人悉く治りし故夫れで皆樣の勸めにより世間に廣く御披露せし處一人として御喜び遊さぬ方なし御問合せ往復葉書
女髮結師
東京麹町區飯田町四ノ十六
安部歌子

日本醬油
フジニホン
日本醬油釀造株式會社
京橋區本八丁堀櫻橋際(電話長三一一四 新橋四六六八 二三三五)
東京出張所
大阪市南區新町橋東詰(電話東一三四五)
大阪販賣所

女子美術夏期講習會員募集
一、期日。第一回(八月一日ヨリ同月十五日迄)ト第二回(八月十六日ヨリ同月三十日迄)ノ兩度開催ス。一、講習科目。袋物科、摘細工科、刺繡科、堤細工科、綿細工科、果實製作科ノ六科トス。一、講習料。一科何レモ五拾錢トス二科兼修ハ一圓トス。一、入會申込所及會場。第一回ハ(七月廿五日迄)ニ志望科ヲ明記シテ左記ノ兩所何レニ申シ込ムモヨシ第二回ハ(八月十日迄)ニ前同樣ニテ申込ムベシ
和歌山女子美術教授所(和歌山三木町堀詰十二番地)
和歌山女子美術教授所分教場(和歌山市廣瀬通リ町一丁目)
規則書送ル 郵劵貳錢封入
講師
東京東洋女藝學校卒業 東京女子技藝教授所卒業 田村しな子
東京東洋女藝學校卒業 小笠式造花教授所卒業 永野とよ子

綠陰水邊必ず本誌無かる可らず

女學世界
八月一日發行 第拾號 正價廿錢 郵税二錢 前金四冊七十五錢 八冊一圓四十五錢 外税
◎新工風の席上體操 嘉納治五郎
◎今の世に珍らしい古風な家庭…花賣女
◎福田博士の離婚事情…婦人記者
▽小說 暑中休暇…いさを
▽小說 磯のかほり 與謝野晶子
◎海濱松風料理 ◎つりしのぶ… ◎小說まつかせ… ◎新婚日記…
◎興味ある山中の避暑…井深花子女史
◎囚はれし代議士の留守宅…月待女
▽海の風も山の風も吹かぬ浮世の窓…エスユーネ
▽夏の美容法▽夏の旅▽夏座敷▽子供の育て方…
◎子供を本位として工風せる設備 寺田勇吉
◎避暑する人の幸なき身の上 照子

少女世界
△口繪▽朝顔、夏の午後(以上石版)ハンモック、ヴァイオリン其他(以上寫眞版)
◎お伽小說 火借の森 嚴谷小波
◎小說 腕環の行衛 押川春浪
▲別莊の一日 △小說お雪 △乳屋の少女 ▲忠臣の歌 ▲軍艦內の食事… △服裝と織物 △牽牛花 ▲ジャンダアク… ▲銀貨入の編方… △ルキ內親王 ▲學校便り △其他有益材料愈多
◎八月一日發行 第拾壹號 正價拾錢 郵税一錢 ◎前金四冊卅八錢 八冊七十五錢 外郵税を要す

東京本町三丁目 博文館發行 (振替口座二四〇番)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN